

編 集 後 記

3年間の編集幹事を経て、一昨年9月から編集委員に加えていただきました。他の外科系、消化器系学会誌と異なり、本誌の編集委員の任務は投稿された論文の査読に重点が置かれていて、著者とやりとりしながら質の高い論文を作れる体制が構築されています。良く推敲された論文を読んでいると指導をされた先生のご苦勞が伝わってきます。この「推敲」の意味は中国・唐の国の詩人賈島（かとう）が「僧は推（お）す月下の門」の一句を「僧は敲（たた）く月下の門」に修正すべきか迷ったことに由来するといわれています。文章の構文が適切か、表現は正しいか、といった基本的事項は投稿前に十分チェックしていただけると気持ちよく査読の作業を進めることができます。

本誌はいわゆる商業誌と異なり、販売を目的としておりませんので、読者の目を引くような大げさなタイトルや販売部数を伸ばすために宣伝をする必要はありません。しかしながら、読者である会員の皆様に関心を持っていただけるかどうかは、大切なことであります。メールボックスから雑誌を取り出して、目次だけ見てそのままゴミ箱へ、といった風景を医局で時々目にします（本誌ではありません）。病院から貸与された限られたスペースを書籍で埋め尽くさないための生活の知恵かも知れませんが、魅力の無い雑誌の宿命でしょう。また、他の学会や研究会の事務局としてその運営を担当してわかったことですが、驚いたことに会員収入の半分以上は会誌の作成や郵送のための経費として使われています。実感はありませんが、会員は年会費を払って機関誌を購入しているわけです。したがって目を通さないで破棄するのは、書店のレジでお金を払って、そのまま置いてきてしまう行為と同じです。

本誌の掲載内容について、会員の方々からご意見、ご批判を編集委員会にいただくことは、機関誌を通じて健全な学会運営を行っていくために欠かせません。本誌はすでに、学会ホームページからダウンロード可能です。近い将来、ペーパーレスになっていくものと期待していますが、質の高い論文が数多く掲載され、会員の皆様のデスクの棚やコンピューターのハードディスクに永く保存されるような洗練された雑誌になるよう、微力を尽くしていきたいと思えます。よろしく願います。

（大谷 吉秀）